

2012年度 クラブ経営情報開示資料

2013年7月12日

公益社団法人日本プロサッカーリーグ
管理統括本部 企画部
クラブライセンス事務局

1. 2012年度 全体の概要

1 - 1. 2012年シーズンの主なトピックス

- ① J1 18クラブ、J2 22クラブの40クラブ構成。
FC町田ゼルビア・松本山雅FCがJ2に入会。
- ② J2-JFL間の入れ替えを初めて実施。
FC町田ゼルビアがJFLに降格、V・ファーレン長崎がJ2に昇格。
- ③ クラブライセンス制度がスタート。
42クラブがクラブライセンスを申請、41クラブにクラブライセンスを交付。
(J1ライセンス:33クラブ J2ライセンス:8クラブ)
- ④ 40クラブで総勢1,700人以上のフロントスタッフが働いている。
※2012年6月末、クラブライセンス申請書類をもとに集計。役員・非常勤役員・社員・出向社員・契約社員の合計。
※ちなみに、2013年2月1日現在の選手数は1,142名。

1-2. 1試合あたりの平均入場者数 (リーグ戦のみ)

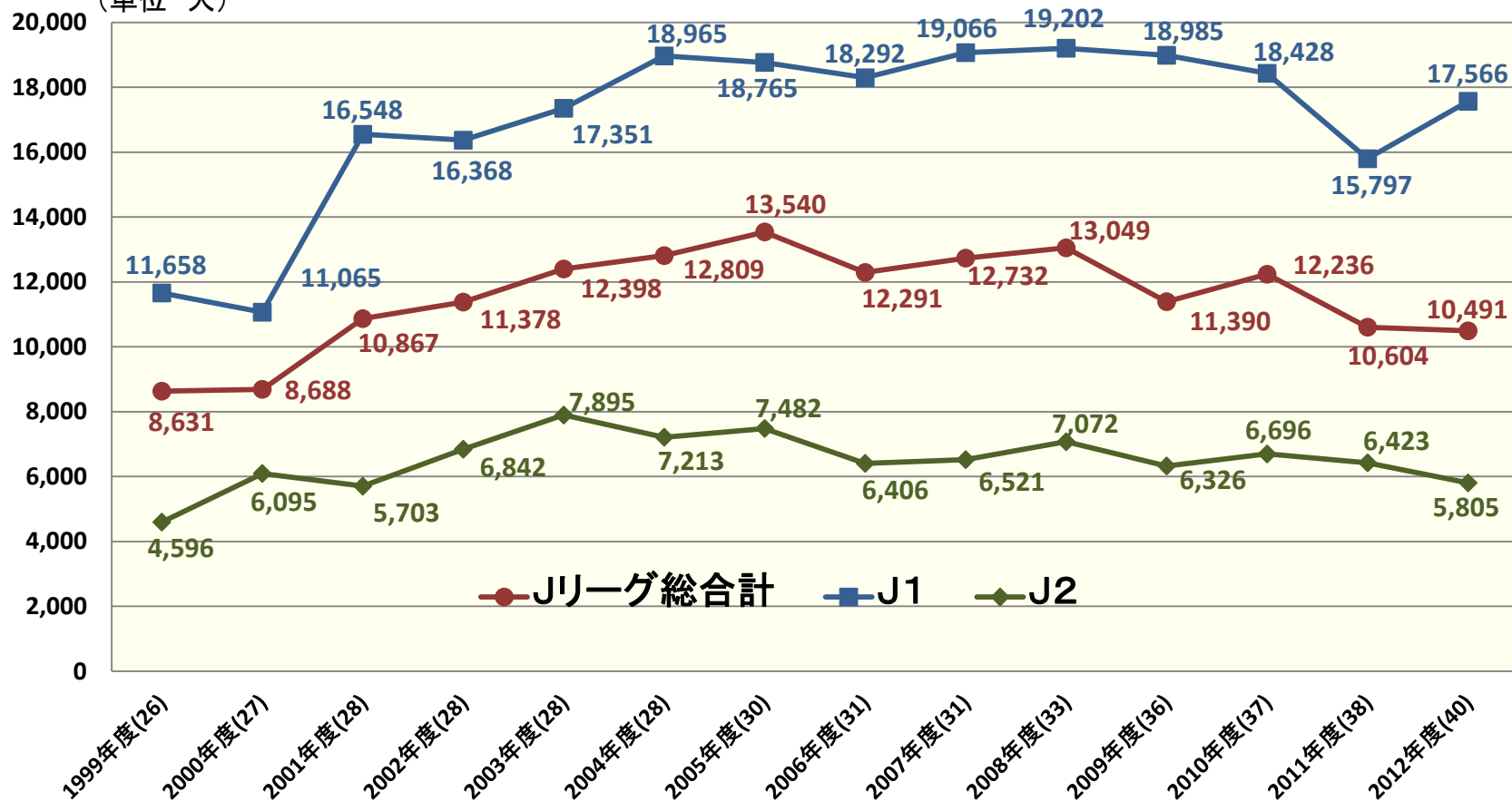
J1は前年比増、しかし2010年水準にまでは戻りきれず。

J2は前年比減。平均6,000人を割る。

J1リーグ戦平均入場者数は17,566人(前年比+1,769人)。

J2リーグ戦平均入場者数は5,805人(前年比▲618人)

(単位 人)



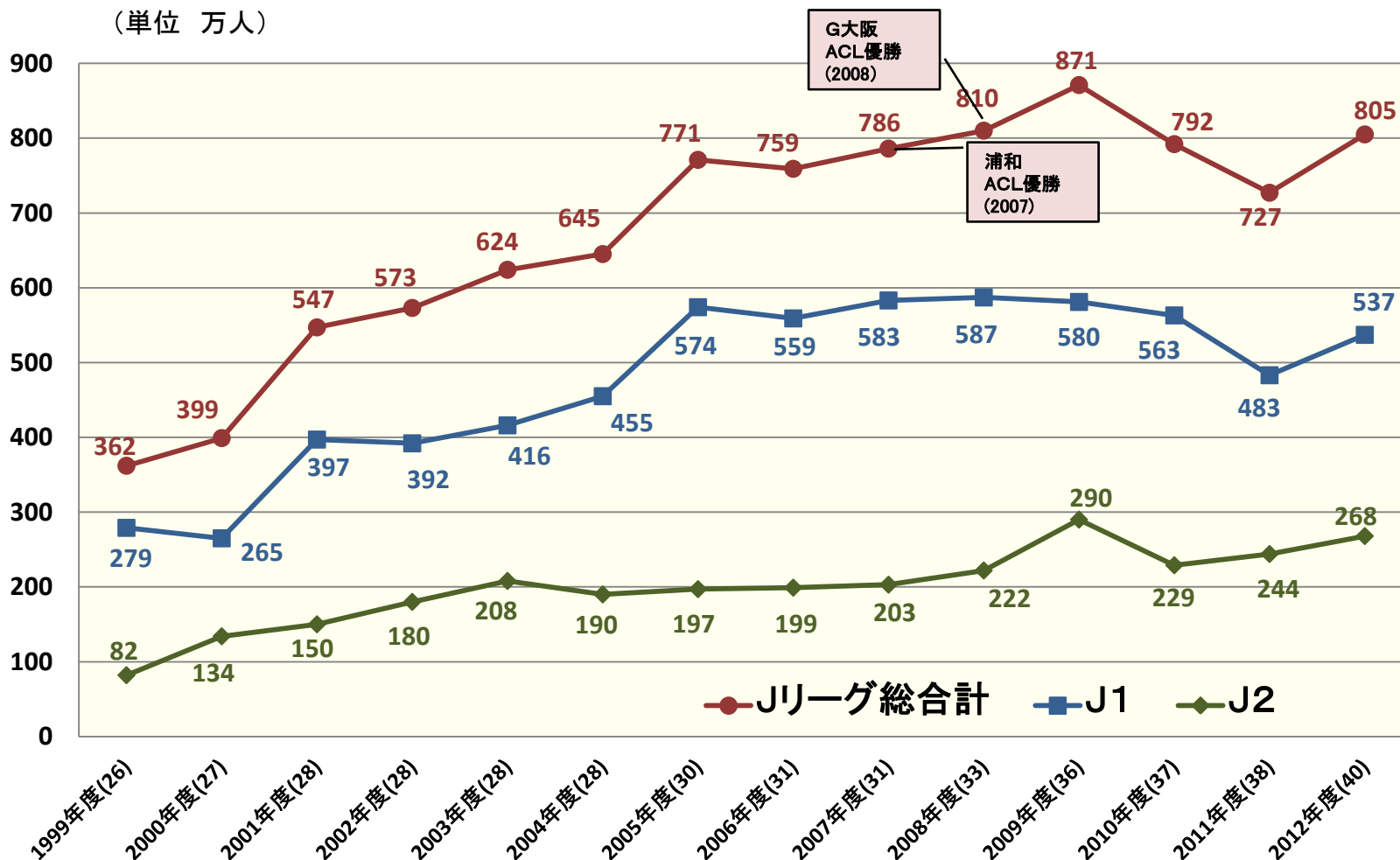
()内はクラブ数

1-3. リーグ戦総入場者数



J1・J2リーグ戦の総入場者数は、8,057,181人(前年比782,704人)。

3年ぶり800万人超。2009年(871万人)は、J2が51節あった。



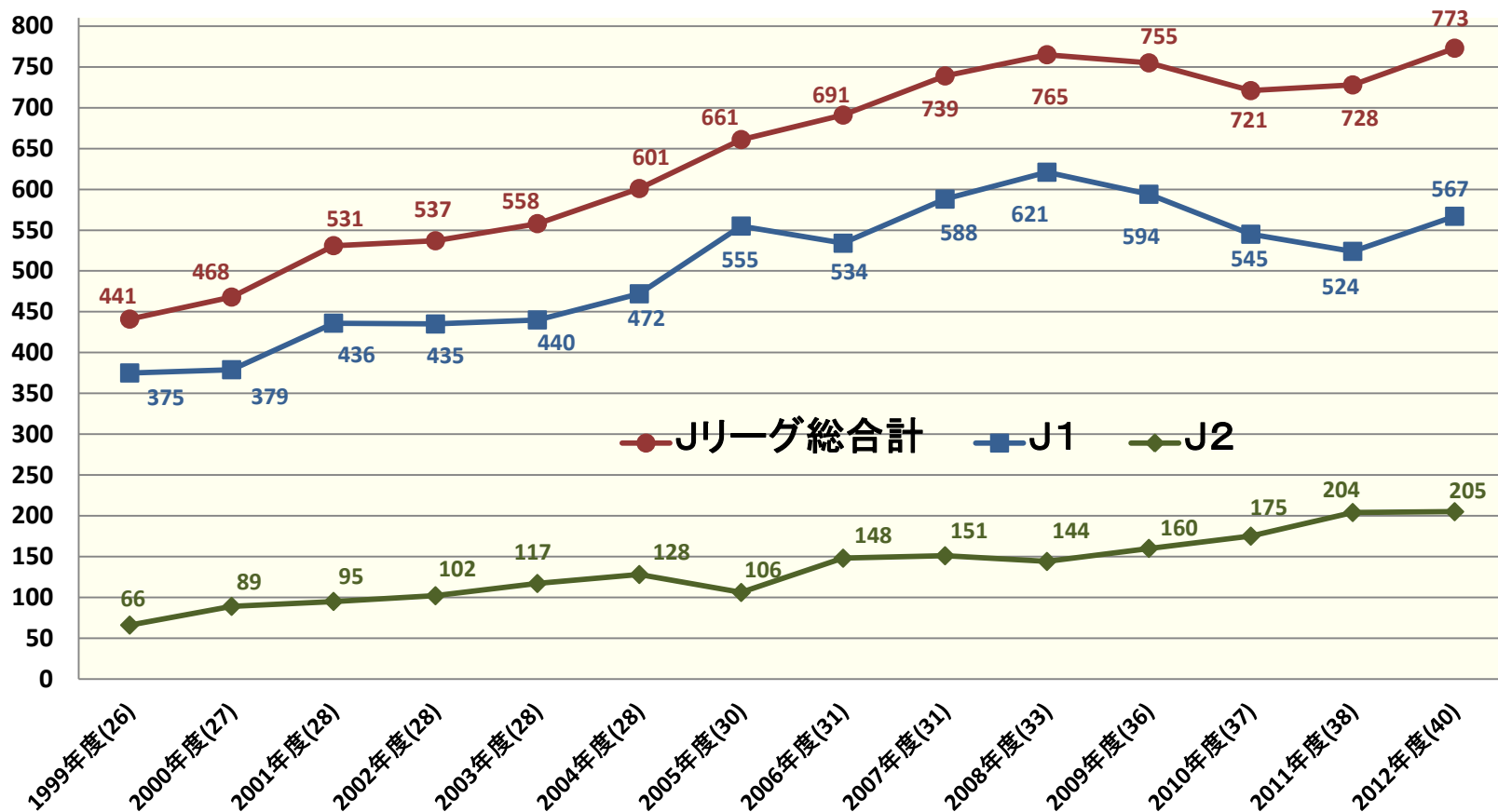
1-4. 全クラブの営業収入(売上高)の合計

① 40クラブの収入の総合計は約773億円。過去最高。

震災の影響があった2011年度(約728億円)から45億円の増収。大幅に伸びた。

② J1の平均収入は31.5億円、J2は9.3億円。

(単位 億円)



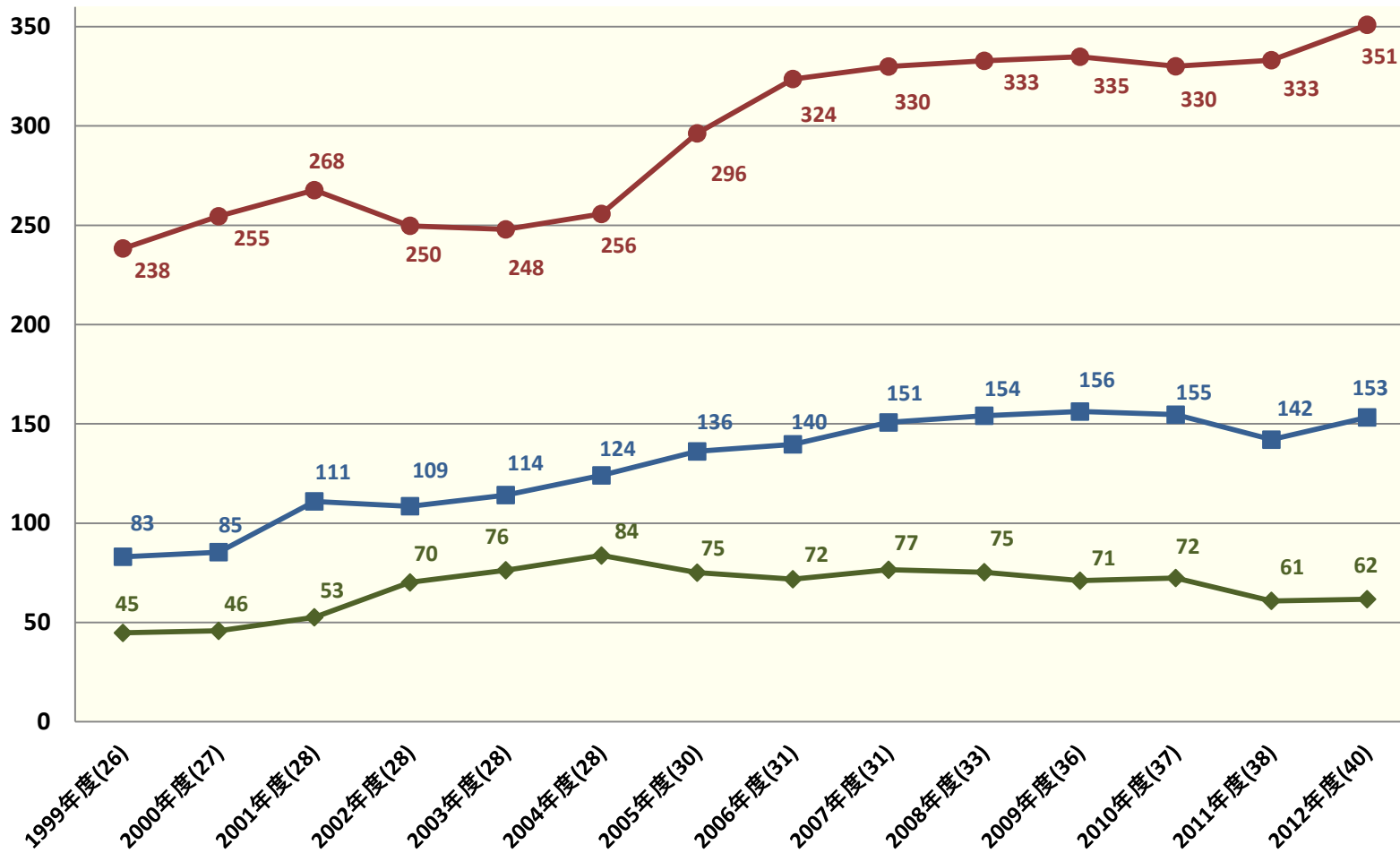
()内はクラブ数

1-4 (補足) . 営業収入主要項目の推移



(単位 億円)

● 広告料収入 ■ 入場料収入 ◆ Jリーグ配分金



2010年度以前のJリーグ配分金には、賞金が含まれている。

()内はクラブ数

1-5. 決算数値(40クラブ合計)の概要

40クラブ合計の「当期純利益(損失)」が黒字化。2007年度以来。

- ・40クラブの当期純利益(当期純損失)をすべて合計すると、4億円の「黒字」。
- ・広告料収入(前年比+17.8億円)、入場料収入(前年比+11.2億円)の伸びが収益の改善に貢献。

(単位 百万円)

科 目	J1+J2 合計			
	2011年度	2012年度	増減額	増減比
営業収益	72,847	77,333	4,486	106.2%
広告料収入	33,314	35,096	1,782	105.3%
入場料収入	14,203	15,324	1,121	107.9%
Jリーグ配分金	6,086	6,169	83	101.4%
アカデミー関連収入	3,713	4,136	423	111.4%
その他収入	15,531	16,611	1,080	107.0%
営業費用	72,921	76,639	3,718	105.1%
チーム人件費	32,862	33,309	447	101.4%
試合関連経費	6,296	6,650	354	105.6%
トップチーム運営経費	7,167	8,002	835	111.7%
アカデミー運営経費	2,550	2,864	314	112.3%
女子チーム運営経費	169	228	59	134.9%
販売費および一般管理費	23,876	25,585	1,709	107.2%
営業利益	▲ 73	692	765	-948.6%
営業外収益	721	693	▲ 28	96.1%
営業外費用	380	368	▲ 12	96.8%
経常利益	269	1,015	746	377.3%
特別利益	326	250	▲ 76	76.6%
特別損失	697	411	▲ 286	59.0%
税引前当期利益	▲ 102	855	957	—
法人税および住民税	438	450	12	102.7%
当期純利益(損失)	▲ 541	403	944	—

数値は、各クラブの百万円単位の金額を単純合計したものであり、端数処理の関係で、合計数値が一部一致しないところがある。

1-5 (補足). 決算数値(40クラブ合計)の概要: J1・J2別内訳

(単位 百万円)		J1合計				J2合計			
		2011年度	2012年度	増減額	増減比	2011年度	2012年度	増減額	増減比
損益総括	科目								
	営業収益	52,421	56,734	4,313	108.2%	20,426	20,599	173	100.8%
	広告料収入	23,638	25,168	1,530	106.5%	9,676	9,928	252	102.6%
	入場料収入	10,899	11,942	1,043	109.6%	3,304	3,382	78	102.4%
	Jリーグ配分金	4,124	4,093	▲ 31	99.2%	1,962	2,076	114	105.8%
	アカデミー関連収入	2,508	3,039	531	121.2%	1,205	1,097	▲ 108	91.0%
	その他収入	11,251	12,492	1,241	111.0%	4,280	4,119	▲ 161	96.2%
	営業費用	52,590	56,706	4,116	107.8%	20,331	19,933	▲ 398	98.0%
	チーム人件費	24,205	25,331	1,126	104.7%	8,657	7,978	▲ 679	92.2%
	試合関連経費	4,520	4,891	371	108.2%	1,776	1,759	▲ 17	99.1%
	トップチーム運営経費	4,758	5,342	584	112.3%	2,409	2,660	251	110.4%
	アカデミー運営経費	1,745	2,126	381	121.8%	805	738	▲ 67	91.7%
	女子チーム運営経費	88	125	37	142.0%	81	103	22	127.2%
	販売費および一般管理費	17,270	18,891	1,621	109.4%	6,606	6,694	88	101.3%
	営業利益	▲ 167	26	193	-	94	666	572	708.1%
	営業外収益	476	559	83	117.4%	245	134	▲ 111	54.7%
	営業外費用	256	126	▲ 130	49.2%	124	243	119	196.0%
	経常利益	53	458	405	864.2%	216	557	341	257.8%
	特別利益	106	0	▲ 106	0.0%	220	250	30	113.5%
	特別損失	246	360	114	146.3%	451	51	▲ 400	11.3%
税引前当期利益	▲ 87	99	186	-	▲ 15	756	771	-	
法人税および住民税	276	291	15	105.4%	162	159	▲ 3	98.1%	
当期純利益(損失)	▲ 363	▲ 194	169	-	▲ 178	597	775	-	

1-6. 赤字クラブ・債務超過クラブ

赤字クラブ、債務超過クラブ、ともに減少

『2014年度末に「3期連続赤字」または「債務超過」でライセンス不交付』
ということが意識され、財務指標は改善に向かっている。

J1・J2合計	2011年度	2012年度
[クラブ数]	[38]	[40]
赤字クラブ数	18	12
3期連続赤字クラブ数	4	5
債務超過クラブ数	11	9

J 1	2011年度	2012年度	クラブ名 (2012年度)
[クラブ数]	[18]	[18]	
赤字クラブ数	8	5	札幌・鹿島・横浜FM・名古屋・神戸
3期連続赤字クラブ数	2	3	横浜FM・名古屋・神戸
債務超過クラブ数	3	3	札幌・横浜FM・神戸

J 2	2011年度	2012年度	クラブ名 (2012年度)
[クラブ数]	[20]	[22]	
赤字クラブ数	10	7	栃木・群馬・富山・岐阜・鳥取・福岡・熊本
3期連続赤字クラブ数	2	2	群馬・富山
債務超過クラブ数	8	6	栃木・群馬・岐阜・北九州・大分・熊本

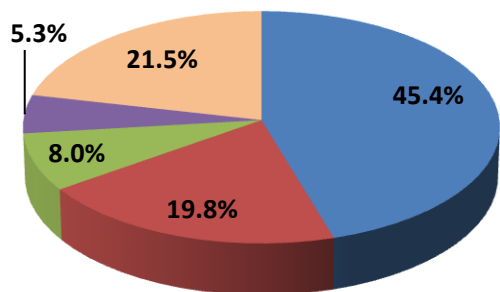
2. クラブ別 収入の特徴

2-1. 営業収入の構成

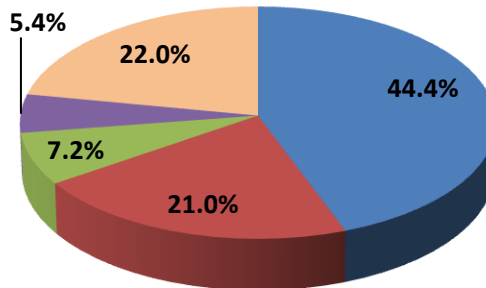
「広告料収入＋入場料収入」で、全体の約3分の2

- ・広告料収入は約45%。入場料収入は約20%。
- ・放送権料はJリーグ配分金に含まれる(約6%)。
- ※放送権料の割合が大きいヨーロッパとの違いがある。
- ・J1とJ2の収益構造には大きな違いは見られない。

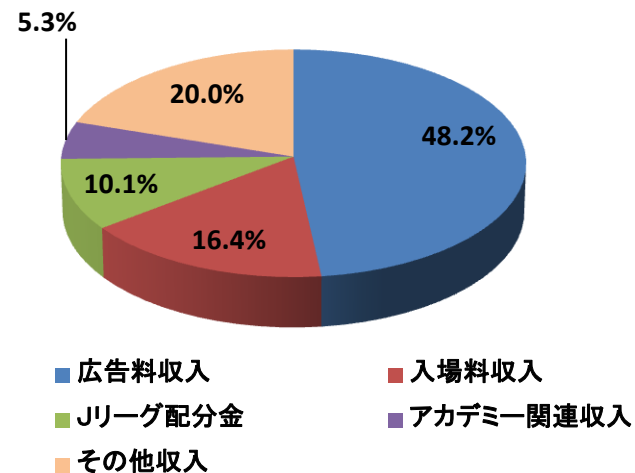
営業収入の構成比 (J1・J2合計)



営業収入の構成比 (J1合計)



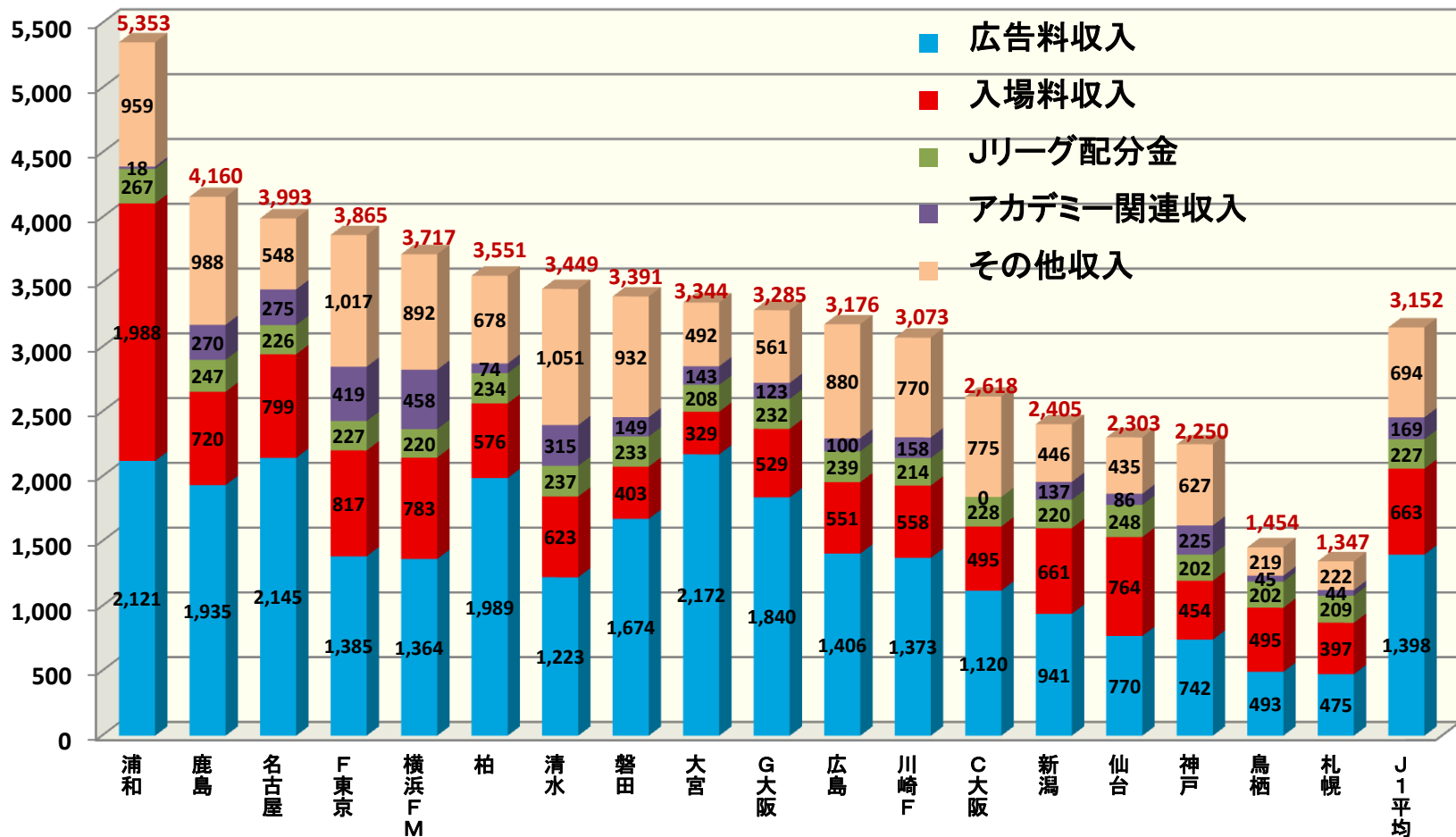
営業収入の構成比 (J2合計)



2-2. クラブ別 営業収入構成 (J1)

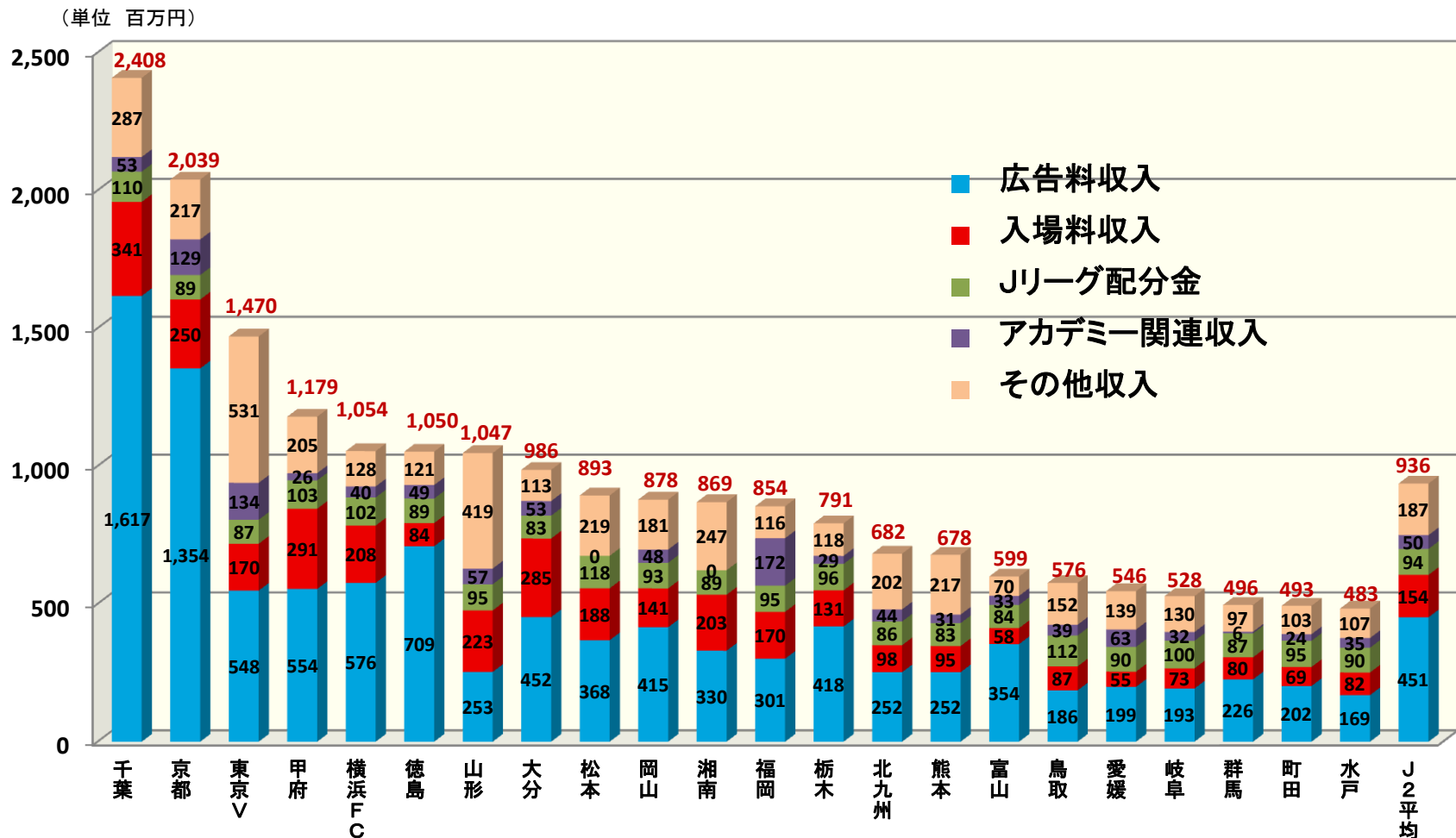
入場料収入割合：浦和(37%)・鳥栖(34%)・仙台(33%)の順に高い。
 広告料収入割合：大宮(65%)・柏(56%)・G大阪(56%)の順に高い。

(単位 百万円)



2-3. クラブ別営業収入構成 (J2)

入場料収入割合: 大分(29%)・甲府(25%)・湘南(23%)の順に高い。
 広告料収入割合: 徳島(68%)・千葉(67%)・京都(66%)の順に高い。

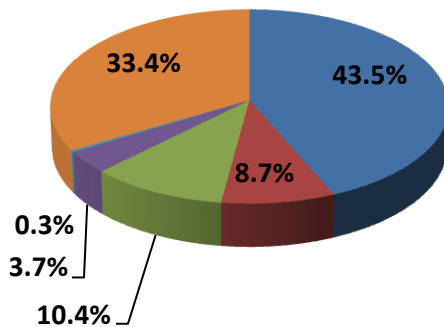


2-4. 営業費用の構成

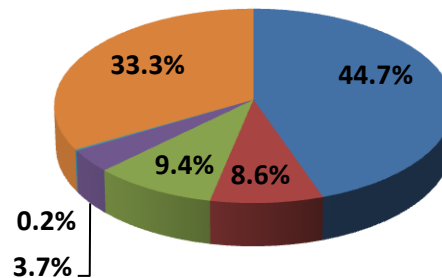
「チーム人件費＋試合関連経費＋トップチーム運営経費」で、
全体の約3分の2弱

- ・チーム人件費は約44%、試合関連経費は約9%、トップチーム運営経費は約10%。
- ・J1とJ2の費用構造には大きな違いは見られない。

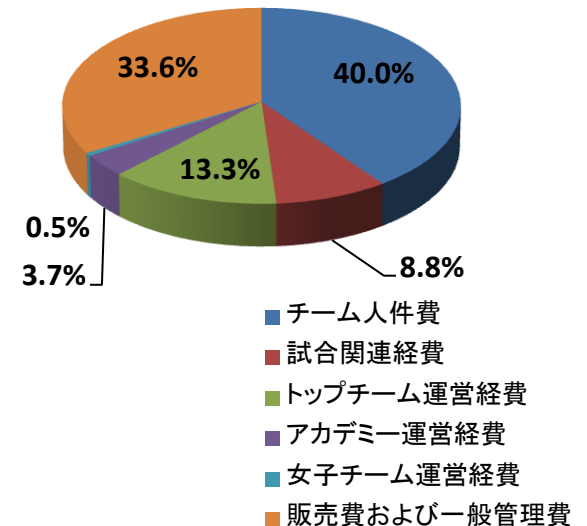
営業費用の構成比（J1・J2合計）



営業費用の構成比（J1合計）



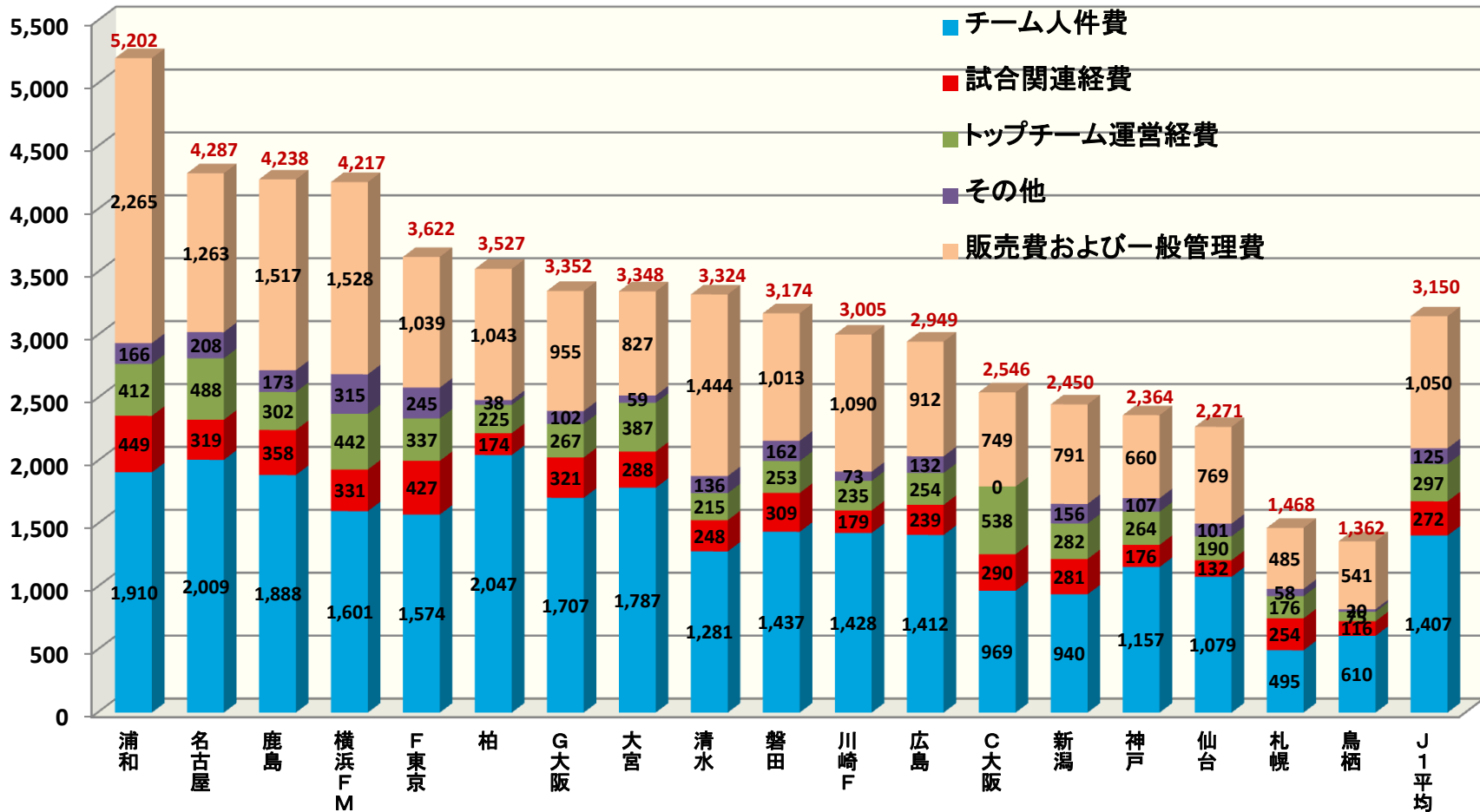
営業費用の構成比（J2合計）



2-5. クラブ別 営業費用構成 (J1)

J1の営業費用の平均は31.5億円。
平均以上のクラブは7クラブ。

(単位 百万円)

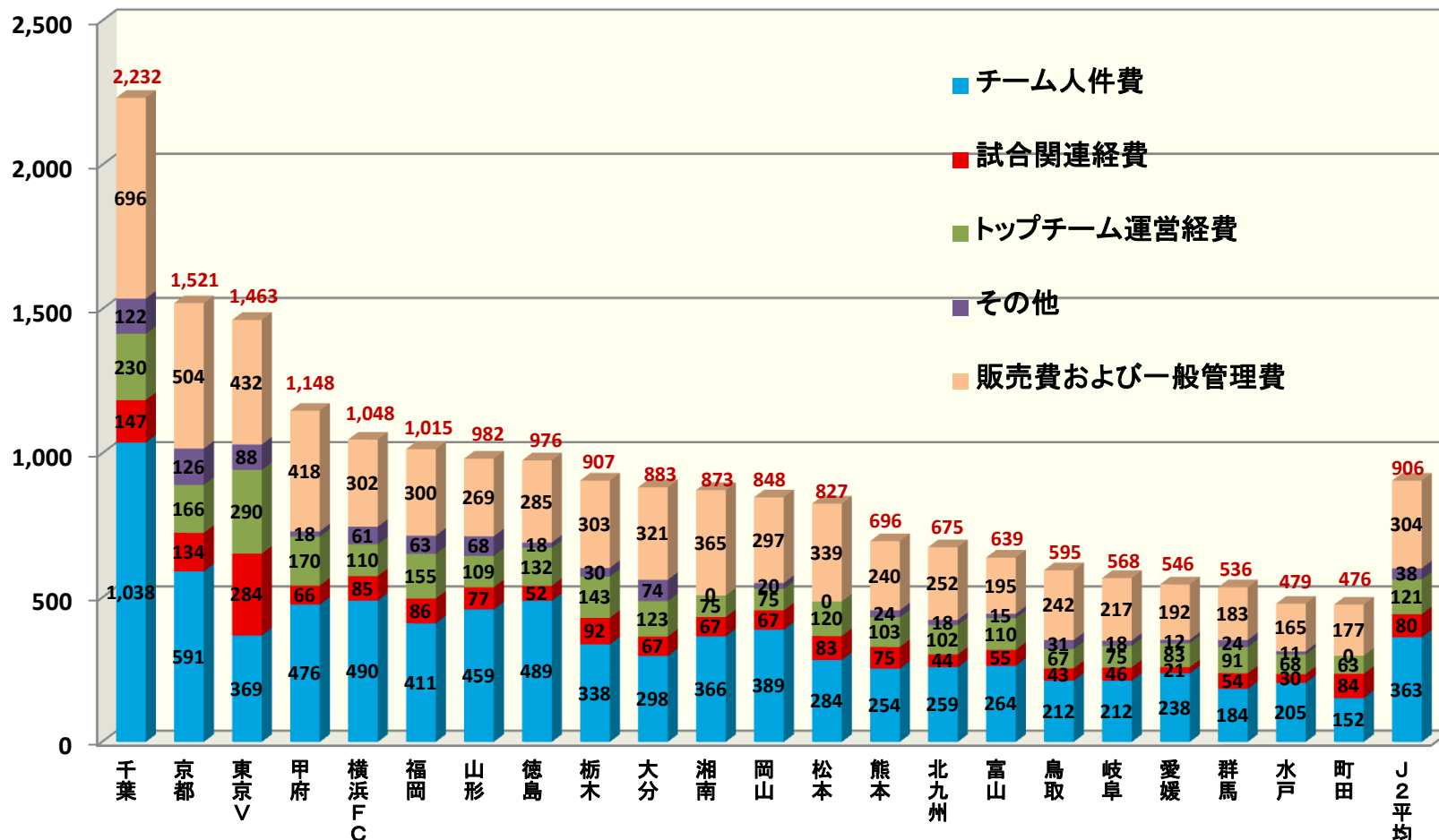


2-6. クラブ別営業費用構成 (J2)

J2の営業費用の平均は9億円。

平均以上のクラブは9クラブ。平均以下のクラブの方が多い。

(単位 百万円)



2-7. クラブの収入と入場者との関係 (J1)

「入場料収入」の増収に関する2つのポイントがある

- ・平均客単価をいかに上昇させるか：価格帯の見直し、販売枚数の拡大
- ・キャパシティの拡大(キャパシティが小さいところほど入場率が高い傾向)



スタジアム環境の
向上が不可欠

営業収入 (単位 百万円)		
1	浦和	5,353
2	鹿島	4,160
3	名古屋	3,993
4	F東京	3,865
5	横浜FM	3,717
6	柏	3,551
7	清水	3,449
8	磐田	3,391
9	大宮	3,344
10	G大阪	3,285
11	広島	3,176
12	川崎F	3,073
13	C大阪	2,618
14	新潟	2,405
15	仙台	2,303
16	神戸	2,250
17	鳥栖	1,454
18	札幌	1,347

平均単価 入場料収入÷総入場者数 (円/人)		
1	浦和	3,192
2	鹿島	2,754
3	名古屋	2,740
4	仙台	2,707
5	柏	2,461
6	鳥栖	2,428
7	清水	2,424
8	G大阪	2,106
9	横浜FM	2,007
10	F東京	2,006
11	札幌	1,945
12	川崎F	1,843
13	広島	1,829
14	神戸	1,824
15	大宮	1,819
16	磐田	1,807
17	C大阪	1,722
18	新潟	1,554

入場率 入場者数÷入場可能数		
1	仙台	84.3%
2	柏	80.5%
3	川崎F	75.5%
4	清水	72.1%
5	G大阪	70.4%
6	大宮	70.1%
7	磐田	69.8%
8	C大阪	62.3%
9	新潟	60.0%
10	浦和	59.1%
11	名古屋	54.7%
12	鳥栖	52.7%
13	神戸	51.7%
14	F東京	48.7%
15	広島	48.0%
16	鹿島	40.3%
17	札幌	38.1%
18	横浜FM	36.8%

入場率は、ホームスタジアムで実施された試合の入場者数の平均を、ホームスタジアムの入場可能数で除した数値である。なお、ホームスタジアムが2つ以上ある場合には、加重平均して算出している。

2-7 (補足) . クラブの収入と入場者との関係 (J2)

営業収入		
(単位 百万円)		
1	千葉	2,408
2	京都	2,039
3	東京V	1,470
4	甲府	1,179
5	横浜FC	1,054
6	徳島	1,050
7	山形	1,047
8	大分	986
9	松本	893
10	岡山	878
11	湘南	869
12	福岡	854
13	栃木	791
14	北九州	682
15	熊本	678
16	富山	599
17	鳥取	576
18	愛媛	546
19	岐阜	528
20	群馬	496
21	町田	493
22	水戸	483

平均単価		
入場料収入÷総入場者数 (円/人)		
1	千葉	1,750
2	横浜FC	1,640
3	京都	1,637
4	栃木	1,620
5	東京V	1,516
6	福岡	1,449
7	山形	1,444
8	湘南	1,411
9	大分	1,396
10	北九州	1,395
11	鳥取	1,332
12	甲府	1,322
13	群馬	1,140
14	徳島	1,002
15	水戸	983
16	松本	940
17	町田	906
18	岡山	841
19	富山	831
20	岐阜	814
21	熊本	773
22	愛媛	722

入場率		
入場者数÷入場可能数		
1	甲府	65.6%
2	岡山	52.9%
3	千葉	47.5%
4	松本	46.9%
5	横浜FC	39.4%
6	水戸	39.2%
7	湘南	37.0%
8	山形	36.5%
9	愛媛	36.3%
10	岐阜	35.6%
11	京都	35.3%
12	町田	34.8%
13	北九州	32.8%
14	群馬	32.7%
15	大分	30.4%
16	熊本	29.0%
17	徳島	26.5%
18	福岡	26.3%
19	鳥取	26.1%
20	栃木	25.2%
21	富山	17.9%
22	東京V	11.8%

入場率は、ホームスタジアムで実施された試合の入場者数の平均を、ホームスタジアムの入場可能数で除した数値である。
なお、ホームスタジアムが2つ以上ある場合には、加重平均して算出している。

2-8. 広告料収入と入場料収入のバランス (J1)

収入の大きな柱である入場料収入・広告料収入をバランスよく獲得し、特定の収入に依存しない経営が求められる(特にJ2)。

入場料収入割合	
入場料収入÷総収入 (%)	
1	浦和 37.1%
2	鳥栖 34.0%
3	仙台 33.2%
4	札幌 29.5%
5	新潟 27.5%
6	F東京 21.1%
7	横浜FM 21.1%
8	神戸 20.2%
9	名古屋 20.0%
10	C大阪 18.9%
11	川崎F 18.2%
12	清水 18.1%
13	広島 17.3%
14	鹿島 17.3%
15	柏 16.2%
16	G大阪 16.1%
17	磐田 11.9%
18	大宮 9.8%

広告料収入割合	
広告料収入÷総収入 (%)	
1	大宮 65.0%
2	柏 56.0%
3	G大阪 56.0%
4	名古屋 53.7%
5	磐田 49.4%
6	鹿島 46.5%
7	川崎F 44.7%
8	広島 44.3%
9	C大阪 42.8%
10	浦和 39.6%
11	新潟 39.1%
12	横浜FM 36.7%
13	F東京 35.8%
14	清水 35.5%
15	札幌 35.3%
16	鳥栖 33.9%
17	仙台 33.4%
18	神戸 33.0%

チーム人件費割合	
チーム人件費比率 (%)	
1	柏 58.0%
2	大宮 53.4%
3	G大阪 50.9%
4	神戸 48.9%
5	広島 47.9%
6	川崎F 47.5%
7	仙台 47.5%
8	名古屋 46.9%
9	磐田 45.3%
10	鳥栖 44.8%
11	鹿島 44.5%
12	F東京 43.5%
13	清水 38.5%
14	新潟 38.4%
15	C大阪 38.1%
16	横浜FM 38.0%
17	浦和 36.7%
18	札幌 33.7%

2-8(補足). 広告料収入と入場料収入のバランス (J2)

入場料収入割合		
入場料収入÷総収入 (%)		
1	大分	28.9%
2	甲府	24.7%
3	湘南	23.4%
4	山形	21.3%
5	松本	21.1%
6	福岡	19.9%
7	横浜FC	19.7%
8	水戸	17.0%
9	栃木	16.6%
10	群馬	16.1%
11	岡山	16.1%
12	鳥取	15.1%
13	北九州	14.4%
14	千葉	14.2%
15	熊本	14.0%
16	町田	14.0%
17	岐阜	13.8%
18	京都	12.3%
19	東京V	11.6%
20	愛媛	10.1%
21	富山	9.7%
22	徳島	8.0%

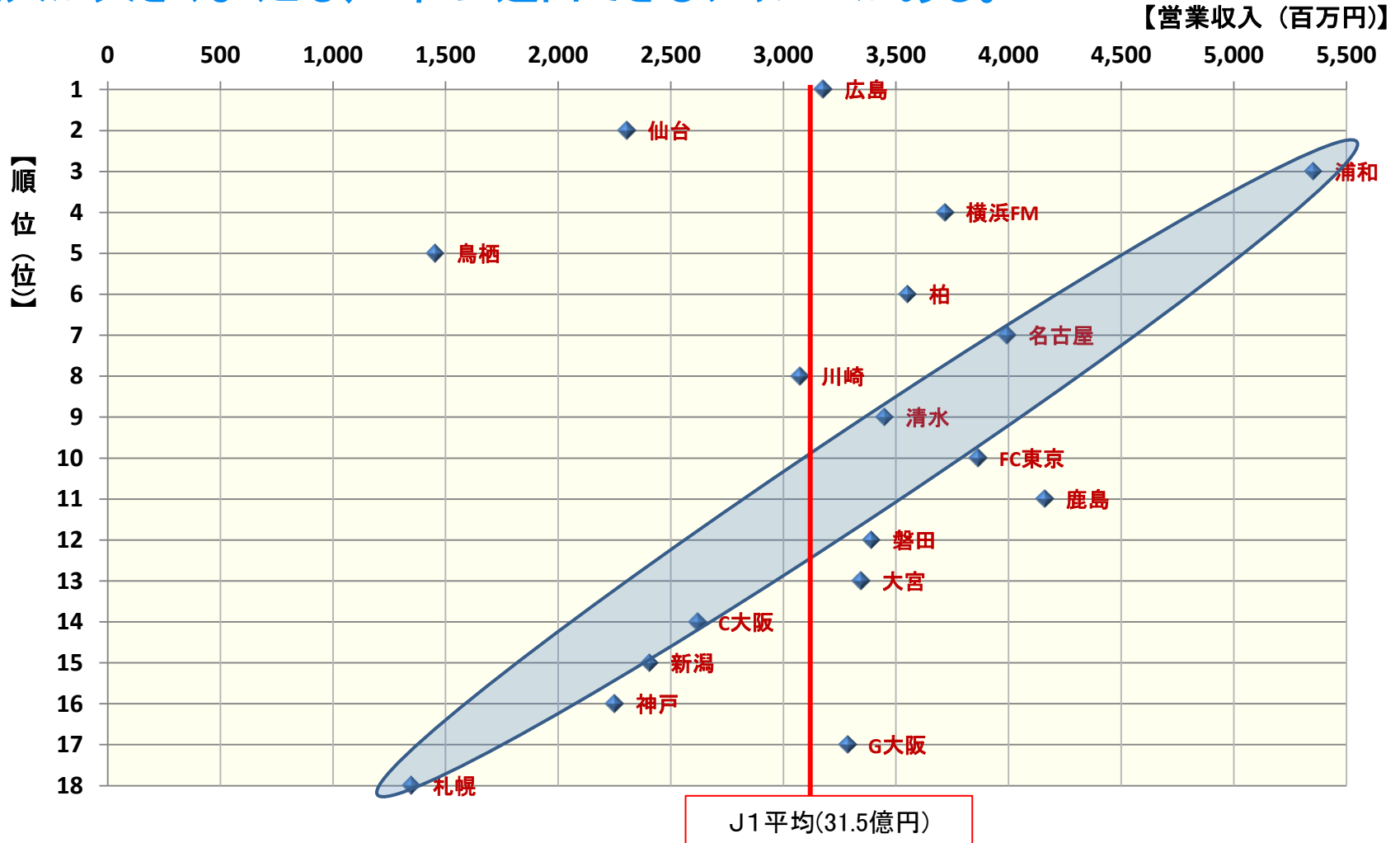
広告料収入割合		
広告料収入÷総収入 (%)		
1	徳島	67.5%
2	千葉	67.2%
3	京都	66.4%
4	富山	59.1%
5	横浜FC	54.6%
6	栃木	52.8%
7	岡山	47.3%
8	甲府	47.0%
9	大分	45.8%
10	群馬	45.6%
11	松本	41.2%
12	町田	41.0%
13	湘南	38.0%
14	東京V	37.3%
15	熊本	37.2%
16	北九州	37.0%
17	岐阜	36.6%
18	愛媛	36.4%
19	福岡	35.2%
20	水戸	35.0%
21	鳥取	32.3%
22	山形	24.2%

チーム人件費割合		
チーム人件費比率 (%)		
1	徳島	50.1%
2	横浜FC	46.8%
3	山形	46.7%
4	千葉	46.5%
5	岡山	45.9%
6	愛媛	43.6%
7	水戸	42.8%
8	湘南	41.9%
9	甲府	41.5%
10	富山	41.3%
11	福岡	40.5%
12	京都	38.9%
13	北九州	38.4%
14	岐阜	37.3%
15	栃木	37.3%
16	熊本	36.5%
17	鳥取	35.6%
18	松本	34.3%
19	群馬	34.3%
20	大分	33.7%
21	町田	31.9%
22	東京V	25.2%

3. 収入と順位との関係

3-1. 収入と順位との関係 (J1)

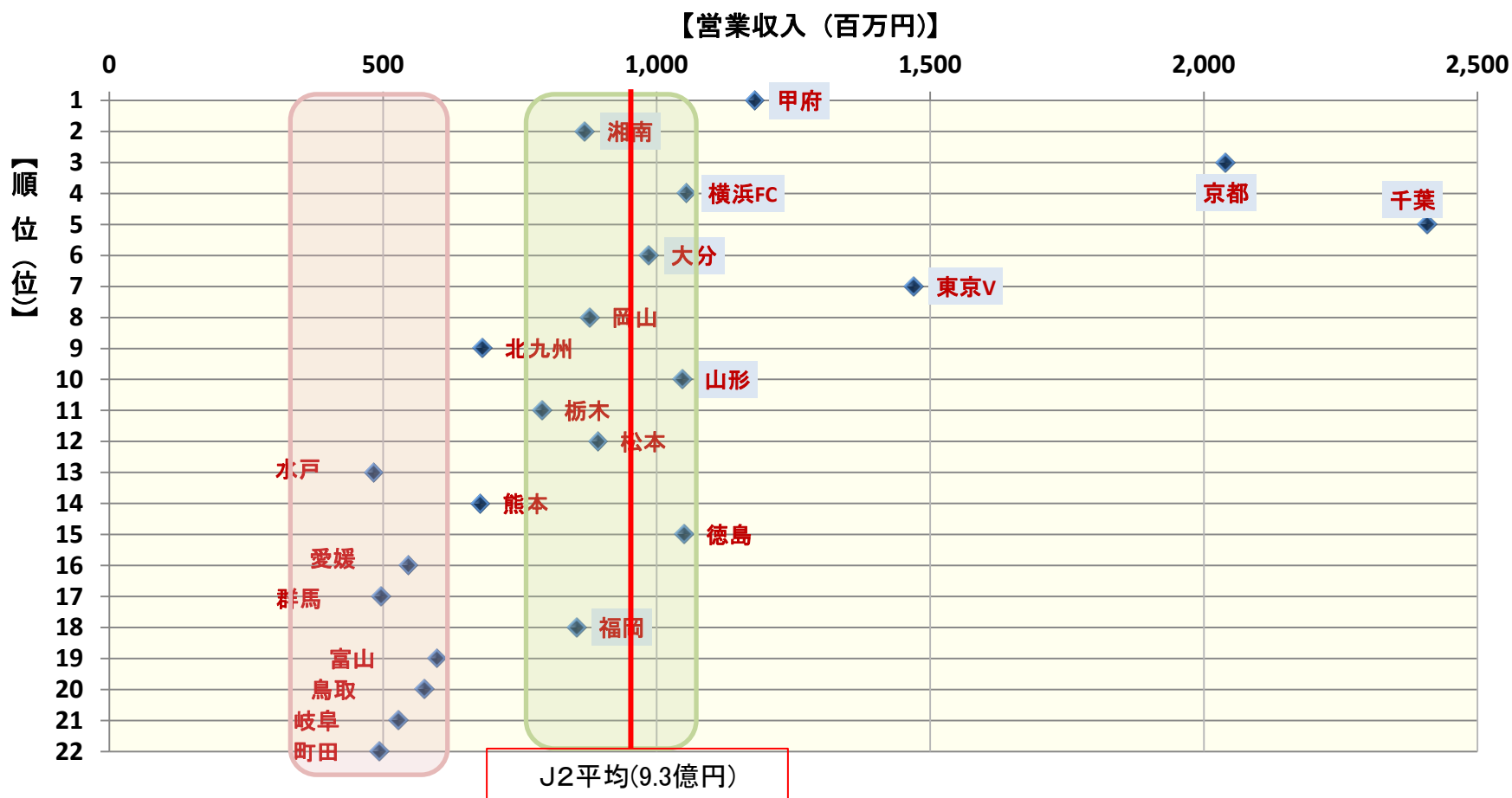
J1では「収入が大きいほど順位は上になる」とまでは言い切れない。
収入が大きくなるとも、上位に進出できるチャンスがある。



3-2. 収入と順位との関係 (J2)

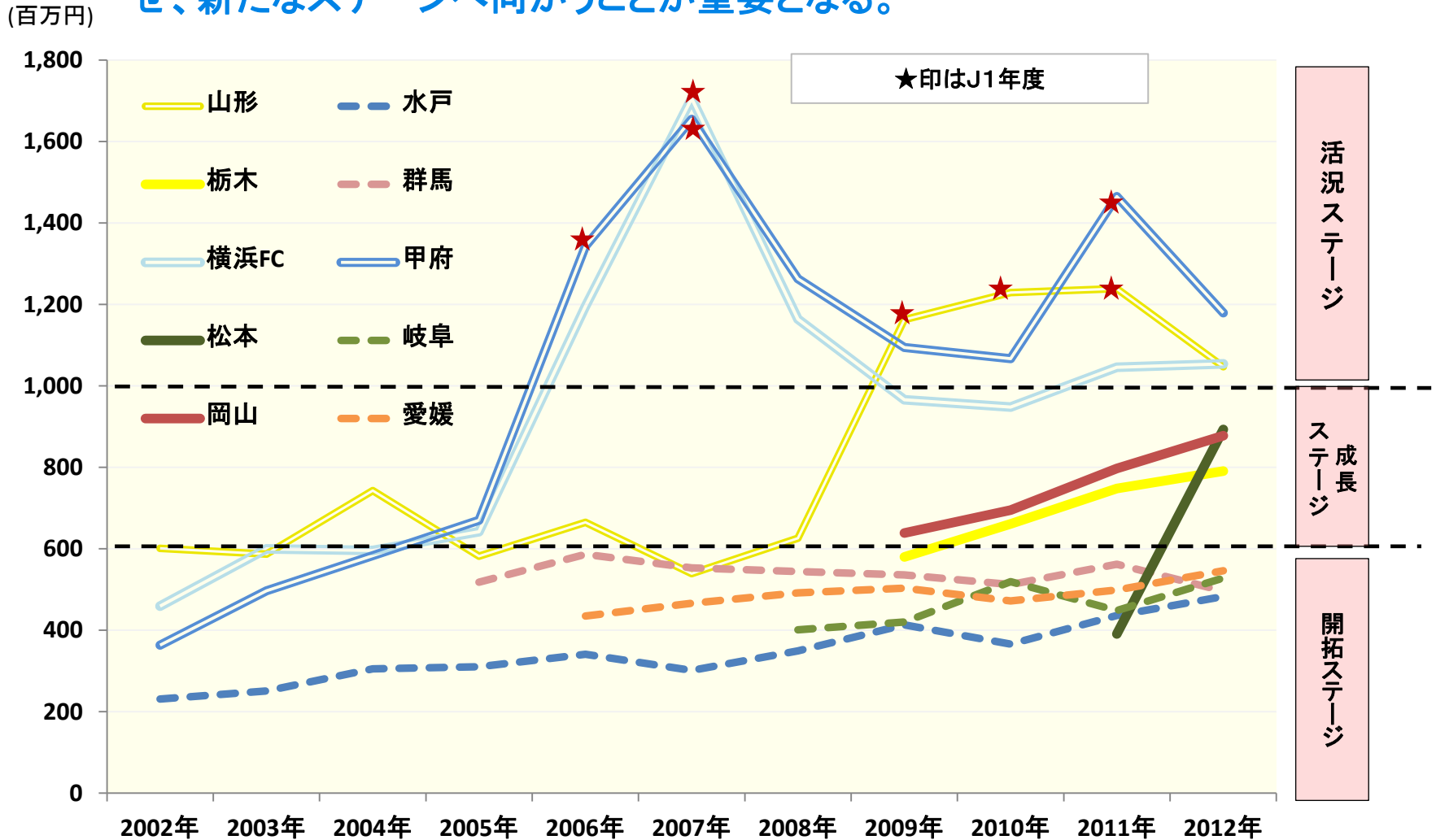
J2は「5～6億円前後」-「10億円前後」-「それ以上」にグループ分けされる。

- ・増収による底上げは、J2のさらなる活性化にとって重要なテーマ。
- ・J1昇格経験がなくとも着実に成長を遂げるクラブもある(岡山・松本等)。



3-3. J2の底上げに向けて

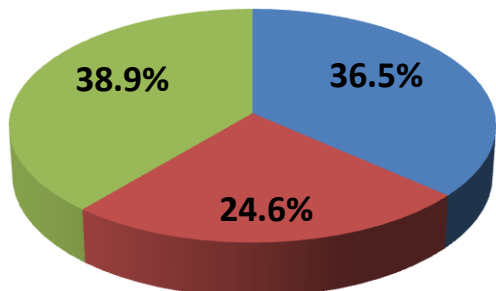
「J1昇格」がすべての解決策ではないが、クラブの規模をさらに上昇させ、新たなステージへ向かうことが重要となる。



4. ヨーロッパはどうなっているか

4-1. 世界の主要クラブの収入の構成

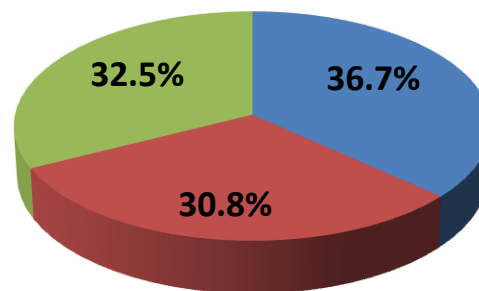
レアル・マドリード
スペイン(リーガ・エスパニョーラ)



収入総額 615億円

■ 広告料収入 ■ 入場料収入 ■ メディア収入

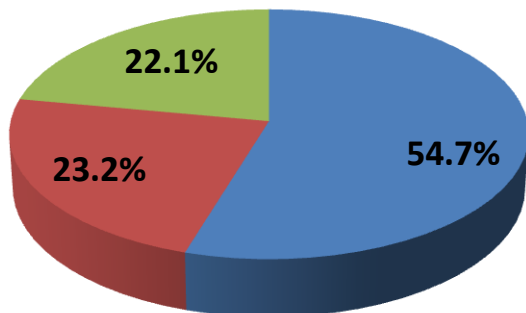
マンチェスター・ユナイテッド
イングランド(プレミアリーグ)



収入総額 475億円

■ 広告料収入 ■ 入場料収入 ■ メディア収入

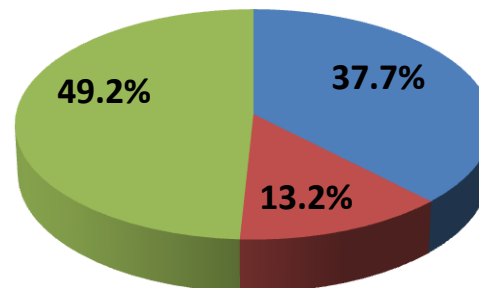
バイエルン・ミュンヘン
ドイツ(ブンデスリーガ)



収入総額 442億円

■ 広告料収入 ■ 入場料収入 ■ メディア収入

ACミラン
イタリア(セリエA)

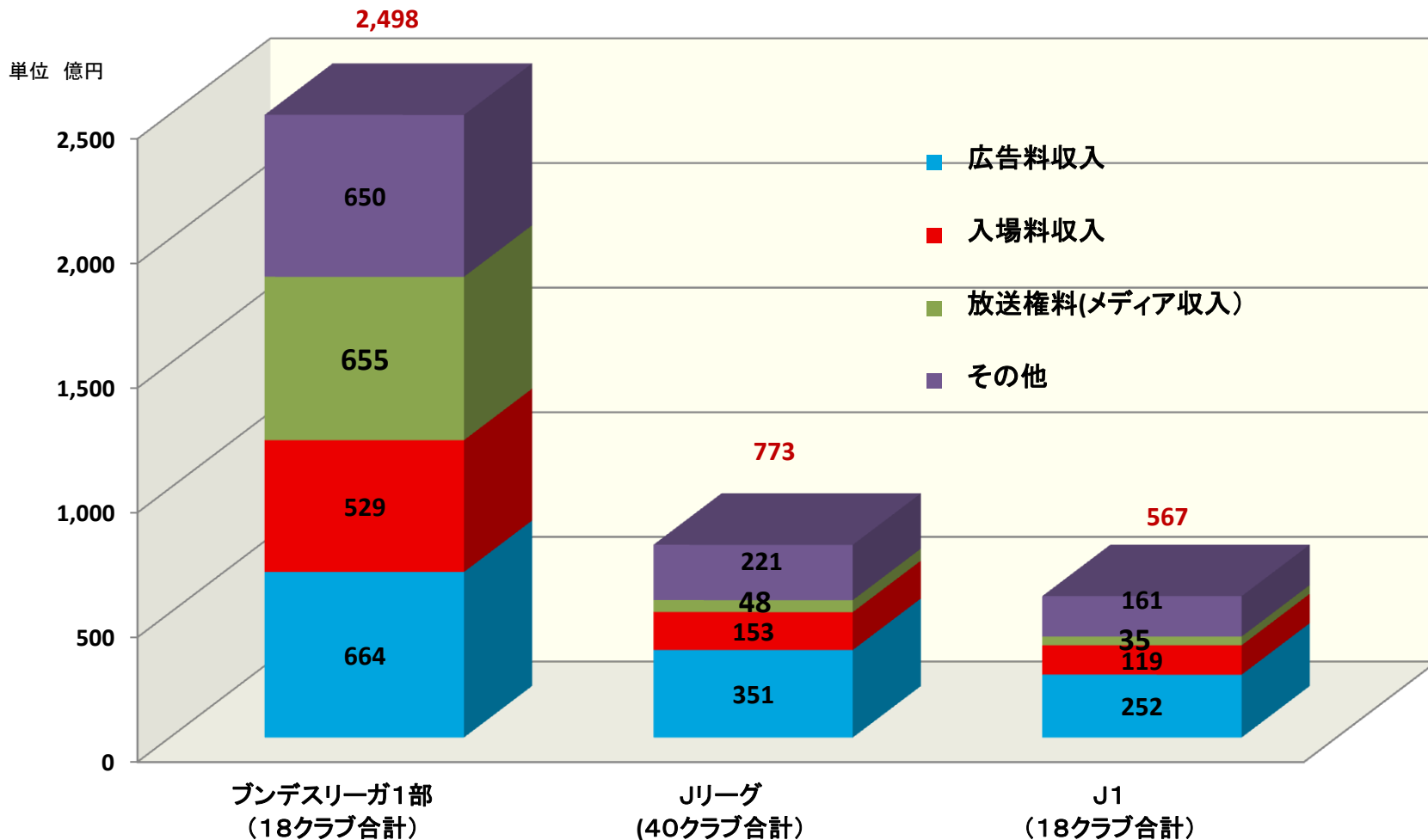


収入総額 308億円

■ 広告料収入 ■ 入場料収入 ■ メディア収入

海外クラブの数値は2011-2012シーズンのもので(1ユーロ=120円で換算)。
出典「デロイト・フットボール・マネー・リーグ」 「ブンデスリーガ年次レポート」

4-2. 日本とブンデスリーガとの比較 (収入の構成)



海外クラブの数値は2011-2012シーズンのもので(1ユーロ=120円で換算)。
 出典「デロイト・フットボール・マネー・リーグ」 「ブンデスリーガ年次レポート」

5. クラブのホームスタジアムの状況

5-1. スタジアムの状況 (J1) 2013年5月末現在



クラブ	スタジアム	所有者	形態	入場可能数	観客席屋根カバー率	建設時期	最新改修時期	新設・大規模改修
横浜FM	日産スタジアム	横浜市	陸上	72,081	66.6 %	1998年	-	
浦和	埼玉スタジアム2002	埼玉県	専用	62,010	74.0 %	2001年	-	
F東京	味の素スタジアム	東京都	陸上	48,999	77.4 %	2001年	-	
C大阪	大阪長居スタジアム	大阪市	陸上	47,853	69.8 %	1964年	1996年	
新潟	東北電力ビッグスワンスタジアム	新潟県	陸上	41,684	90.7 %	2001年	-	
名古屋	豊田スタジアム	豊田市	専用	41,267	100.0 %	2001年	-	
鹿島	県立カシマサッカースタジアム	茨城県	専用	38,200	67.9 %	1993年	2001年	
広島	エディオンスタジアム広島	広島市	陸上	36,900	4.8 %	1992年	-	広島市がサッカースタジアム建設協議会を設置
大分	大分銀行ドーム	大分県	陸上	31,997	100.0 %	2001年	-	
鳥栖	ベストアメニティスタジアム	鳥栖市	専用	24,170	83.1 %	1996年	-	
川崎F	等々力陸上競技場	川崎市	陸上	23,583	38.0 %	1966年	1995年 2015年	大規模改修工事中
清水	IAIスタジアム日本平	静岡市	専用	20,248	26.6 %	1991年	2003年	
名古屋	名古屋市瑞穂陸上競技場	名古屋市	陸上	20,223	24.3 %	1941年	1994年	
仙台	ユアテックスタジアム仙台	仙台市	専用	19,694	100.0 %	1997年	-	
湘南	Shonan BMW スタジアム平塚	平塚市	陸上	18,520	4.9 %	1987年	1994年	
磐田	ヤマハスタジアム(磐田)	ヤマハ発動機(株)	専用	16,444	17.2 %	1978年	2013年	改修工事中
C大阪	キンチョウスタジアム	大阪市	専用	17,877	53.2 %	1987年	2013年	
甲府	山梨中銀スタジアム	甲府市	陸上	15,859	4.0 %	1986年	2006年	
大宮	NACK5スタジアム大宮	さいたま市	専用	15,491	5.2 %	1960年	2007年	
柏	日立柏サッカー場	クラブ	専用	15,109	13.5 %	1985年	2012年	
入場可能数・屋根カバー率平均				31,410	60.5 %			

5-2. スタジアムの状況 (J2) 2013年5月末現在

クラブ	スタジアム	所有者	形態	入場可能数	観客席屋根カバー率	建設時期	最新改修時期	新設・大規模改修
東京V	味の素スタジアム	東京都	陸上	48,999	77.4 %	2001年	-	
札幌	札幌ドーム	札幌市	野球共用	39,856	100.0 %	2001年	-	
熊本	うまかな・よかなスタジアム	熊本県	陸上	30,504	55.9 %	1998年	-	
神戸	ノエビアスタジアム神戸	神戸市	専用	28,483	100.0 %	1970年	2003年	
福岡	レベルファイブスタジアム	福岡市	専用	22,331	71.3 %	1995年	-	
G大阪	万博記念競技場	独立行政法人日本万国博覧会記念機構	陸上	21,000	1.0 %	1972年	2006年	2013年新設着工(2015年完工予定)
京都	京都市西京極総合運動公園陸上競技兼球技場	京都市	陸上	20,588	0.0 %	1942年	1995年	新設建設地決定
松本	松本平広域公園総合球技場	長野県	専用	20,336	12.1 %	2001年	-	
長崎	長崎県立総合運動公園陸上競技場	長崎県	陸上	20,090	100.0 %	1969年	2013年	
札幌	札幌厚別公園競技場	札幌市	陸上	19,620	0.3 %	1986年	1998年	
千葉	フクダ電子アリーナ	千葉市	専用	19,525	85.6 %	2005年	-	
山形	NDソフトスタジアム山形	山形県	陸上	19,517	0.5 %	1991年	1995年	
富山	富山県総合運動公園陸上競技場	富山県	陸上	18,576	11.6 %	1993年	2009年	
岡山	kankoスタジアム	岡山県	陸上	15,479	28.8 %	1957年	2003年	
横浜FC	ニッパツ三ツ沢球技場	横浜市	専用	15,440	0.0 %	1955年	2010年	
栃木	栃木県グリーンスタジアム	栃木県	専用	15,293	4.6 %	1993年	2012年	
徳島	鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム	徳島県	陸上	15,079	1.3 %	1971年	2012年	大規模改修工事中
岐阜	岐阜メモリアルセンター長良川競技場	岐阜県	陸上	13,152	45.8 %	1991年	2011年	
鳥取	とりぎんバードスタジアム	鳥取市	専用	11,999	9.7 %	1995年	-	
群馬	正田醤油スタジアム群馬	群馬県	陸上	10,471	0.0 %	1951年	2012年	
北九州	北九州市立本城陸上競技場	北九州市	陸上	10,202	0.0 %	1989年	2010年	2015年新設着工予定(2017年完工予定)
水戸	ケーズデンキスタジアム水戸	水戸市	陸上	10,136	41.5 %	1987年	2009年	
愛媛	ニンジニアスタジアム	愛媛県	陸上	10,002	0.5 %	1979年	2014年	国体(2017)に向けた改修工事中
入場可能数・屋根カバー率平均				19,856	43.3 %			

ご不明な点、ご質問、さらなる取材ご依頼の方は、
Jリーグ広報室までお問い合わせください。

Jリーグ 管理統括本部 広報室

TEL:03-3830-1866

・本資料の利用は、他の方法によって入手された情報とも照合・確認し、利用者の判断によって行ってください。